

(別記様式)

令和4年度 京都府立向日が丘支援学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階 ・ **実施段階**）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
◆教育目標「自分らしく 人とともに 今を生きる力を」の実現に向けた方策を学校経営の中で具現化・具体化し、発信する学校を目指す。 ◆全ての児童生徒が、社会の中で幸せな人生を実現する力を獲得するために、一人一人の可能性に着目し、徹底して可能性を伸ばす教育を実践する学校を目指す。 ◆地域社会と連携協働し、共生社会の形成に積極的に貢献する学校を目指す。	全校をあげた感染症対策の徹底により児童生徒の健康と命を守ることを最優先にし、ながら、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、社会に開かれた教育課程の実現に向けて教育活動を推進した。 ○学校経営 様々な方法での学校情報の発信、教職員研修の実施等に取り組むことをとおして社会の変化に対応した学校経営を推進することができた。 ○教育活動 外部専門家を有効活用し、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善研究を組織的・計画的に進めてきた。 次年度の仮移転に向けて、移転後の教育環境を想定しながら、移転計画及び移転後の教育活動計画の具体化を進める。	引き続き感染症対策に徹底して努め、児童生徒の健康を守り、安心安全な教育環境を堅持する。また、時点修正した「PLAN5」に全校で取り組むことをとおして、以下の重点項目に組織的に迫ることから、地域社会とともにあり、共生社会の形成に貢献する学校を目指す。 ○学校経営 ①地域社会と連携協働し、地域社会に貢献する学校経営の推進 ②特別支援学校に勤務する教職員、教育公務員として、指導の専門性に加え、高い危機管理意識・人権意識、社会性、協調性と自己研鑽力及び子どもを愛し、育む情熱をもった人材の育成 ③「働き方改革」の具現化による、一人一人の教職員が、澁刺、颯爽と働く学校経営の推進 ④府教委、保護者、地域と連携した、仮移転に向けた具体的な準備の推進 ○教育活動 ①新学習指導要領の趣旨を踏まえ、多様な児童生徒に自分らしい社会貢献を実現する力を育むことを目指した授業改善、教育課程改善の推進 ②地域関係機関及び地域社会との連携協働による教育活動の積極的展開、センター的機能の積極的な発揮による地域におけるインクルーシブ教育の推進及び共生社会の形成への積極的な貢献

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	・学校経営方針を具現化・具体化する、一体感のある学校経営の推進	・学校経営方針を各学部、寄宿舎、各分掌で意識した一貫したマネジメントの実施	B	B	「PLAN5」に定められた方向を意識し、全体的には残業時間の減少が見られ働き方に関する学校風土は変化してきた。一方、特定の業務を担う教職員への業務の集中を組織として改善することが課題である。仮移転については、進捗状況を踏まえ、関係機関と連携し、適切に進めて来ている。
		・「PLAN5」における令和4年度Goalsの達成を意識した具体的取組の推進	B		
		・学校予算の適切且つ計画的な執行	B		
		・各学部、各分掌等における業務内容の徹底した精査による総業務量削減（京都府「教職員の働き方改革実行計画」を踏まえた計画的取組の実施）	B		
		・衛生委員会の機能を活用した健康で働きやすい職場環境の形成	B		
		・各学部と寄宿舎間の日常的な連携及び危機対応時の適切な連携	B		
		・組織的な取組としての仮移転計画の策定推進	B		
	・人が育つ研修会等の計画的推進	・本年度の重点の達成及びニーズに基づいた研修会の年間計画に沿った実施（リモート実施等の適切な方法の工夫）	B	B	地元で学ぶ人権研修会、主体的な学びを工夫したコンプライアンス研修会を実施した、感想等から大変に有意義な研修となった。
		・職員の人権意識、規範意識向上のための研修会の実施	A		
	・「向日が丘相談・支援センター」機能を生かした、地域のニーズに応え、インクルーシブ教育の推進に寄与する特別支援教育の推進	・地域の学校等に特別支援教育への理解と対応を実現する特徴ある取組の実施	B	B	特別支援学級の継続支援を中心に教育相談件数が著しく増加した。具体的な支援の提案、教材貸し出し等を丁寧に進めた。
		・校内巡回相談員の積極的活用等による組織的な相談支援の実施	A		
		・幼稚園・保育園、高等学校を含む関係機関等との連携・協働の強化	B		

	・地域社会と協働する学校経営の推進 ・学校運営協議会の機能を活用した学校経営の改善	・HP、学校だより等を活用した学校情報の積極的発信（HP更新10回／月） ・学校運営協議会の機能を活用した外部評価の実施 ・地域社会連携部の機能を活用した地域連携の推進（リモート連携等の目的に応じた方法の工夫）	A B A	A	HPのリニューアルに併せて項目を整理し、児童生徒の成長の姿、仮移転に関わる情報等を積極的に発信した。感染症対策を徹底しながら移転後を見据えた地域社会連携を進めることができた。
	・安心安全を具体化する取組の推進	・行動様式の改善及び徹底等による校内感染拡大防止の徹底 ・避難訓練、緊急対応訓練の計画的実施（全校年2回以上、寄宿舎年5回以上） ・P T Aとの連携による避難訓練等の実施 ・医療的ケア担当者会の機能を活用した安全で適正なケアの実施 ・児童生徒一人一人の人権を大切にする取組の推進（いじめ対策委員会による調査と対応 2回／年、全校研修会の実施） ・教具等の安全点検の組織的な実施 ・ヒヤリハット事象等の即時共有と教訓化 ・関係機関と連携した安全な改築関連工事への対応	B B B B A B B B	B	引き続き、状況の変化に応じた感染症対策を徹底しながら校内における拡大を防ぐことができた。いじめに関する全校研修会をアンケート調査前に実施し、教職員の意識を高めた取組とすることができた。改築関連工事は、授業への影響を回避するために、関係機関と丁寧に連携を進めながら対応することができた。
教育課程・学習指導	・社会との協働を大切に「社会に開かれた教育課程」に基づく実践の積極的展開 ・多様な児童生徒に自分らしい社会貢献を実現する力を育む授業改善の推進	・学部及び全校での学習指導要領を踏まえた授業改善研究の実施（外部専門家等を活用した研修会の実施）	B	B	今年度も「学習評価」をテーマに掲げ、外部専門家や府教委指導主事の支援を受けながら全校で計画的に授業改善研究を進めることができた。ICTを活用した授業改善は組織的取組により進んできているが、日常的教育効果の見えるものへと更なる活用を進めたい。また、自立活動についても、自立活動支援担当とのより緊密な連携から更なる充実が求められる。
		・社会とのつながりを意識した授業実践の積極的展開	B		
		・全学級におけるICTを活用した授業改善の積極的展開	B		
		・自立活動支援担当との連携による全児童生徒を対象とした「個に応じた自立活動」の指導の更なる充実	B		
		・学部間の学びの連続性を意識した教育課程の改善	B		
		・社会に開かれた行事としての「学校祭」の企画実施（昨年度の経過を踏まえた発信・連携方法の改善）	B		
		・ニーズに基づく居住地校交流及び学校間交流の計画的な実施	B		
	・一人一人の希望進路の実現	・組織的計画的な進路指導による高等部3年生全員の希望進路の実現	B	B	進路指導は、様々な要因から計画的に進みにくい局面もあったが、関係機関との調整に努力し、進路実現に努めてきた。
	・保護者、関係機関との連携による計画的な進路指導の推進	・全ての児童生徒の社会自立に向け、可能性を延ばす指導の実施	B		
		・研修会等の実施による保護者等への進路情報の提供・共有	B		
	・寄宿舎における指導、支援の充実	・学部における個別の指導計画等との連動を意識した指導、支援の充実	B		

学 校 運 営 協 議 会 に よ る 評 価	○次年度の仮移転に向けて着実に歩みを進めてもらっている。地域にはその地域の独自性があるので、地元情報を丁寧に踏まえて連携を進めることが有効であろう。また、保護者同士の交流機会の設定等の工夫も検討されたい。
	○セクハラ等のコンプライアンス意識高揚のための研修は非常に大切である。また、一方で教育活動が委縮しないように留意して欲しい。
	○適切な就学先の決定に関わっては、地域の学校に特別支援学校の教育の理解を広げていくように取り組むことが必要であろう。
次 年 度 に 向 け た 改 善 の 方 向 性	○引き続き、関係機関との緊密な連携の下、児童生徒が安心して学び続けられるように教育環境の整備を進める。また、年度途中で教育環境が大きく変化することから児童生徒が不安を感じないように、仮設校舎での学校の日々の運営を具体的に想定した準備を進める。 ○これまで大切にしてきた教育理念を堅持し、引き続き学習指導要領の趣旨を踏まえ、ICT活用を含む授業改善に取り組むとともに、社会に開かれた教育課程の具体化に努めること。